

【教員氏名】

松端 克文

【単位数】

2 単位

【演習概要】

地域福祉の理論と多様な実践内容をふまえて、主として地域福祉の推進方法を中心に、

1. コミュニティワークの理論と特徴
2. コミュニティワークの展開過程.
3. コミュニティワークの実践モデル
4. コミュニティワーカーの役割
5. 社会福祉調査法（地域診断の方法）
6. 地域福祉計画の策定方法

などについて学ぶとともに、最新の技術や動向についても学ぶ。その際、可能な限り、具体的な実践事例を素材として、学習する。将来、学生がコミュニティワーカーとして活用できることを目標にした実践的学習ができるよう進めていく。

【学習目標】

- ①地域福祉の概念および特徴について理解する。
- ②地域福祉の推進方法について、そのアプローチの種類や内容、方法について理解する。
- ③ソーシャルワークと地域福祉との関係について理解する。
- ④ローカル・ガバナンスや自治と地域福祉との関係について理解する。

【講義計画】

- 第1回：地域福祉論Aの復習
社会福祉・ソーシャルワークと地域福祉・コミュニティワーク
- 第2回：地域福祉の考え方と地域福祉の歴史（イギリス・アメリカ・日本）
- 第3回：地域を基盤としたソーシャルワーク
個別支援（相談援助）と地域支援（コミュニティワーク）
- 第4回：コミュニティワークの理論と方法①
- 第5回：コミュニティワークの理論と方法②
- 第6回：地域診断の方法と実際① 地域踏査、既存データの活用、地域プロフィールづくりなど
- 第7回：地域診断の方法と実際② 量的調査、質的調査、住民座談会など
- 第8回：域組織化の方法と実際
- 第9回：小地域福祉活動の実際とコミュニティワーカーの役割
- 第10回：当事者組織の組織化の方法と実際
- 第11回：地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定方法と実際①
- 第12回：地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定方法と実際②
- 第13回：福祉教育の推進方法と実際①
- 第14回：福祉教育の推進方法と実際②
- 第15回：自治の構築とコミュニティワーク自治の構築
ローカル・ガバナンスとコミュニティワーク

【成績評価の方法】

試験評価：80% 出席：20%
毎回、出席をとります。
リアクション・ペーパーにはしっかり記入すること。

【テキスト】

上野谷加代子・松端克文・山縣文治編『よくわかる地域福祉（第5版）』ミネルヴァ書房、

【参考文献】

随時、紹介します。

【準備学習の指示】

シラバスを確認の上、予習しておくこと。

【備考（管理者用）】

（旧：社会学特講－地域福祉論B）02～09SS 生読替☆（旧：地域福祉論）02～08SW 生読替